

5・6 原水爆禁止国民平和行進 オンラインスタート集会で東京ー広島コーススタート！

## 5・9 香川県境で四国コーススタート！！

5月5日北海道・礼文島スタートを皮切りに、6日東京・夢の島から広島へ向け原水爆禁止国民平和行進がスタートしました。

スタート集会は、コロナ禍のなかトランペットで「原爆を許すまじ」と「折鶴」を演奏。開会にあたり**高草木博**原水爆禁止世界大会実行委員会運営委員会代表が挨拶。広島・長崎の被爆から76年、核兵器禁止条約が発効し、核兵器の禁止が世界のルールになったと強調。唯一の被爆国日本が禁止条約へと政治の方向を変えるならば、それは諸国民への強力なメッセージになると強調し、全国の草の根から署名を集めて多くの人々と共同を広げ、元気に歩こうと呼びかけました。連帯あいさつとして、第五福竜丸平和協会の**安田和也事務局長**は、今年3月に他界した大石又七さんの「子どもたちにこそ伝えなければならない」との心を自分の心として発信を続けると決意。日本被団協の**和田征子事務局次長**は、ビキニ事件の時は11歳だったと自己紹介し、いまだに地球上には1万3000発を超える核兵器が存在するが、私たちの一步一步が核兵器の三度目の使用を阻んできたと強調。日本政府に禁止条約批准を求める署名を広めましょうと呼びかけました。また一般社団法人東友会の**家島昌志代表理事**は、禁止条約発効は被爆者にとって無上の喜びであり、核兵器時代の終わりの始まりを実感できる快挙と指摘。廃絶までには困難があるが、核兵器廃絶へ世界をリードすると言ってきた日本政府はいまこそ有言実行の態度を見せてほしいと訴えました。**この日高松市**では、「6・9」行動として10人が参加して11人分の署名の成果がありました。新婦人の呼びかけに応えた方からは「高松空襲の時、花園小学校(高松市内)に避難しおにぎりを頂いたと話し、戦争は二度としないしてほしい」と200円のカンパを頂きました。

5月9日前日に香川でも「非常事態宣言」が出され、コロナ感染拡大の広がる中でしたが、県境で「四国コース」の出発式をおこないました。徳島県原水協の猪本百合子事務局長がコロナの中、徳島県への出発を宣言し、この平和行進が7月11日の原水爆禁止四国大会につながると紹介しました。香川県からは岩部乃之原水協筆頭代表理事が禁止条約発効の年だけに悪条件でも「心をつないで」核兵器禁止の思いを広島・長崎に届けましょうと呼びかけ。また、香川県原爆被害者の会の水谷剛事務局長が自治体議会の日本政府への意見書採択の動きとして、採択できなかったが坂出市議会では市長への質問で「市庁舎への懸垂幕」を約束したと県内のたたかいを紹介。徳島県平和委員会の米澤正博事務局長は、意見書1/3突破の報告と批准する政府を作ろうと徳島県内行進への意気込みを語りました。

## 2021年原水爆禁止国民平和行進 スタートセレモニー

